

鶴城小学校

テーマ： 外国人児童教育のあり方を探る（14年次）

<テーマの説明>

令和7年度、鶴城小学校には92名の外国籍、または、外国にルーツをもつ児童が在籍している。その内、日本語教育が必要な児童は6か国43名である。年度途中での転入も多い。このように異なった生活習慣や文化をもつ児童が互いを理解し、相手の立場や考えを尊重しながら、共に学び合おうとする豊かな人間性を育むことをねらいとし、外国人児童教育のあり方を探る。（数字は1学期末現在）

活動内容

1. 児童への支援

（1）DLAの実施

カウフルと協力しながら DLA（外国人児童のための対話型言語アセスメント）を実施し、外国人児童の言語力を個別に調査し、児童についての理解を深める。また、調査の結果を生かして、日本語指導の内容を、一人一人にとってより適切なものになるように検討・調整していく。

（2）MY ALBUMの作成

外国人児童一人に一冊、アルバムを用意する。読書に親しむことや文字を書く機会を与えることを目的に、児童が読んだ本のタイトルや感想を書きとめ、累積していく。日本語だけでなく母国語の読書も進め、言葉についての理解を深めていくことも目標とする。併せて、西尾市立図書館の利用も進めていく。

（3）読み聞かせ指導・学習指導

本校職員、大学生ボランティアなどによる読み聞かせと学習指導の時間を設ける。

読み聞かせ指導では、児童が興味を示しやすい本を選択し、読書に興味をもつきっかけづくりになることをねらう。図書に親しむことで、日本語の語彙を広げたり、日本文化に親しんだりすることができる機会となっている。



<令和6年度の読み聞かせの様子>

学習指導では、日本語で学習を進めていく際のつまずきを把握し、意欲的に取り組むことができるように支援する。夏休みの宿題を中心に、既習事項の確認を行い、基礎的な知識や技能を身に付ける場となっている。



＜令和7年度の学習指導の様子＞

（４）「先輩の話を聞く会」の開催

西尾市に在学または在住している外国人中学生、高校生、大学生の先輩方から、体験談等の話を聞く機会を設けている。身近な先輩の話を通して、励ましを受けたり、将来の夢に向かって進む大切さを学んだりする。



＜令和6年度の会の様子＞

2. 保護者への支援

（１）多文化共生の啓発

学校からのおたよりをポルトガル語等に翻訳をしたり、やさしい日本語にしたりして発信している。また、運動会など主だった行事の演技演目を外国人児童がポルトガル語でアナウンスしている。行事等においては、案内表示をポルトガル語で表記（右の写真）もしている。



（２）文書の翻訳

ポルトガル語・ベトナム語等の文書の翻訳を進め、保護者の理解を深めるとともに、そのデータの蓄積を図る。